

## 上杉先生ってどんな人…?

vol.14年報/2019.11.1発行



麻酔科の上杉貴信です。

「とっても優しい!」って **うわさ** の  
麻酔科の上杉先生って本当は、どんな人?

箕面レディースクリニックでお仕事をさせていただきつつ半年が過ぎました。赴任当時から、産科、小児科の先生方には非常にあたたかいご指導・ご支援を賜り、助産師、看護師の皆様方にはご迷惑をおかけしつつも少々環境に慣れてきたところであります。幼い頃より父の転勤であちこちを転々としておりましたが、小学校の2年間を過ごした箕面の印象が良く、直近20年近くを過ごした神戸を離れて箕面に移り、お近くのクリニックということでご縁をいただき今に至ります。通勤時間が短いことのありがたさを痛感する毎日です。

私は麻酔科を専業としており、専門医資格を有していますが、世の一般の方々と同じく麻酔科という科が何をやる科なのか、大学卒業時点でも全く理解しておりませんでした。薬をピューっと入れたら患者さんが寝る、くらい認識だったと思います。無痛分娩や帝王切開でおこなっている硬膜外麻酔も知りませんでした。

ただ、私がまだ紅顔の美少年でありました20歳のお誕生日、膝の大きな手術を受けました。

## 「よし、切るで」

「むうっ、先生すいません、麻酔、効いてないように思えます!」

「そ、そやけど今更どうしようもないがな…ちょ、ちよつとの間やからがんばれ!」

麻酔が全く効いておらず、全てが手にとるようにわかります。

テレビでよくあるように痛みのあまり都合よく失神しないかな…と思ったのですが、

現実には冷たく、そんな都合よくいかないのです。

切開、骨削り、たくさんの金属の打ち込み、仕上げの縫合まで、4時間セットの素敵な誕生日の体験プレゼント、フェイスブックがあったなら、きっとイイねを押してしまいます。



時は経ち、教員の皆様方の深いお情けによって大学を卒業させていただきました私は専門領域を決めるにあたり、美しい青春時代に刻まれたかけがえのない思い出から、麻酔くらいできるようになっておきたかったこと「誰にでもできる簡単なお仕事です。」という勧誘の言葉に吸い込まれるように麻酔科に所属し、なんとなくそのまま今に至ります。

**現代の麻酔科学は**、以前と比べるとこの10年間でも大きな進化を遂げ、現在はどこの病院でも腕では勝負しない、薬と機械で勝負!の状態であり、私の願いどおりの展開となっております。この波に麻酔を受けられる立場の皆様方と一緒に乗っていきたくて思っております。情報勝負のこの時代、常に新しい道具、機械、薬剤の情報は欠かさず仕入れてアップデートしておりますので、妊婦さんならびにご家族様の安心の一助となれば幸いです。

ということで、

医師免許取得以来、キャリアのほぼ全てを手術室またはICU・救急で過ごしておりました。したがって本来お元気な方に対して医療行為をおこなった経験がなく産科での勤務経験もないため、日々の診療では経験したことのない習慣や言葉の違い・独特なローカルルールなど、驚きに満ちた毎日ではあります。そのような中でもお元気な妊婦さん、ご家族の皆様方とお話する機会を得られることや、ある程度ご希望に沿うことができたときの喜びもまた経験したことのないものです。

これを動機として最新の薬と機械を武器に、医療に貢献し続けていけたらと考えています。

ついですが、

赤ちゃんはとてとても可愛いです。麻酔科という立場上、実際に触れることはないのですが、

**毎日見られるだけでもいいものです。。**